

青森県埋蔵文化財調査報告書 第162集

日 渡 遺 跡

平 成 5 年 度

青 森 県 教 育 委 員 会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第162集

ひ わたし
日 渡 遺 跡

— 東北新幹線建設に伴う県道付替工事に係る —
埋蔵文化財発掘調査

平成 5 年 度

青森県教育委員会

序

青森県教育委員会は平成5年度に、東北新幹線建設に伴う県道付替工事事業予定地内に所在する名川町日渡遺跡の記録保存を図るため、発掘調査を実施しました。

調査により、縄文時代早期の遺構と平安時代の遺物を発見しました。

本報告書は、この発掘調査の成果をまとめたものであり、いささかでも文化財の保護および活用に資するところがあれば幸いに存じます。

最後であります。調査の実施と報告書の作成にあたり関係各位から御協力、御指導賜りましたことに対し、心から感謝の意を表します。

平成6年3月

青森県教育委員会

教育長 石川正勝

例 言

- 1 本報告書は、平成5年度に実施した東北新幹線建設に伴う県道付替工事に係る日渡遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の登録番号は、青森県遺跡地図（平成4年3月：青森県教育委員会）の地図番号38遺跡番号61043である。
- 3 本報告書の作成は、小田川、増尾が行った。
- 4 挿図の縮尺は、遺跡位置図（1/50,000）、地形図（1/1,500）、グリッド・遺構配置図（1/400）、遺構（1/40）、遺物（1/2）で各図ごとにスケールを付した。遺物写真図版の縮尺は（1/2）である。 ※遺跡位置図は国土地理院発行の名川・三戸1/25,000を使用した。
- 5 挿図中の方位は真北を示す。
- 6 挿図中に使用したスクリーントーンの利用例は図中に示した。
- 7 土層観察に用いた色調・粒径区分等は「新版標準土色帖」（小山、竹原：1993）を参考にし、て表記した。
- 8 文中に引用した文献名については、著者名と西暦年で示し、巻末に収めた。
- 9 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

序

例 言

第 I 章 調査に至る経緯と調査要項

第 1 節 調査に至る経緯..... 1

第 2 節 調査要項..... 1

第 II 章 調査経過と調査の方法

第 1 節 調査経過..... 4

第 2 節 調査方法..... 4

第 III 章 遺跡の位置・地形と周辺の遺跡

第 1 節 遺跡の位置・地形と層序..... 7

第 2 節 周辺の遺跡..... 9

第 IV 章 検出遺構と出土遺物

第 1 節 検出遺構.....13

第 2 節 出土遺物.....15

第 V 章 まとめ.....16

挿 図

第 1 図 遺跡の位置と周辺の遺跡..... 3

第 2 図 遺跡地形図..... 5

第 3 図 グリッド・遺構配置図..... 6

第 4 図 遺跡周辺の地形分類図.....10

第 5 図 遺跡土層図.....11

第 6 図 第 1・2 号土坑.....14

第 7 図 出土遺物.....15

写真図版

報告書抄録

第 I 章 調査に至る経緯と調査要項

第 1 節 調査に至る経緯

東北新幹線盛岡以北の工事に伴い、県道名川軽米線と交差する三戸郡名川町法光寺字日渡地区での県道付替工事が計画された。この工事予定地の南側に隣接して周知の日渡遺跡が所在していることから、教育庁文化課が平成 4 年 5 月に現地踏査を行ったところ、この遺跡の範囲が付替工事に係わる部分にまで及んでいることが判明した。特にこの地点は、如来堂川左岸の段丘端でもあり、地形上、遺構や遺物が包含されてる可能性が高いものと判断された。

このため、平成 4 年度には工事の主体者である日本鉄道建設公団と教育庁文化課との数度に渡る協議の結果、発掘調査を実施し、記録保存を行うことで一致した。調査対象面積は3,144 m²、調査期間は平成 5 年度の 4 月から 7 月までである。

平成 5 年 3 月 24 日には、日本鉄道建設公団、教育庁文化課、青森県埋蔵文化財調査センターの三者による現地での立会調査を実施し、調査範囲の確認や調査事務所の設置場所、あるいは多量に排出されると推定される排土処理の方法等の発掘調査を円滑に進めるための協議を行った。

第 2 節 調査要項

1 調査目的

東北新幹線建設に伴う県道付替工事業実施に先立ち、当該地区に所在する日渡遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2 調査期間

平成 5 年 4 月 12 日から 6 月 25 日まで（当初予定平成 5 年 4 月 12 日から 7 月 16 日まで）

3 遺跡名及び所在地

日渡遺跡 三戸郡名川町法光寺字日渡 58-6、79、外

4 調査面積

3,144 平方メートル

5 調査依頼者

日本鉄道建設公団

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関

名川町役場

名川町教育委員会

三八教育事務所

9 調査参加者

- | | | | |
|-----------|------|----------------|--------|
| (1) 調査指導員 | 村越 潔 | 弘前大学教育学部教授 | (考古学) |
| (2) 調査協力員 | 工藤友治 | 名川町教育委員会教育長 | |
| (3) 調査員 | 小川陽造 | 八戸工業高等専門学校教授 | (分析化学) |
| | 高島成侑 | 八戸工業大学教授 | (建築史) |
| | 松山 力 | 八戸市文化財審議委員 | (地質学) |
| | 市川金丸 | 青森県立郷土館学芸課課長補佐 | (考古学) |
| | 橋本正信 | 青森県立八戸南高等学校教諭 | (考古学) |
| | 小林和彦 | 八戸市博物館主査兼学芸員 | (考古学) |

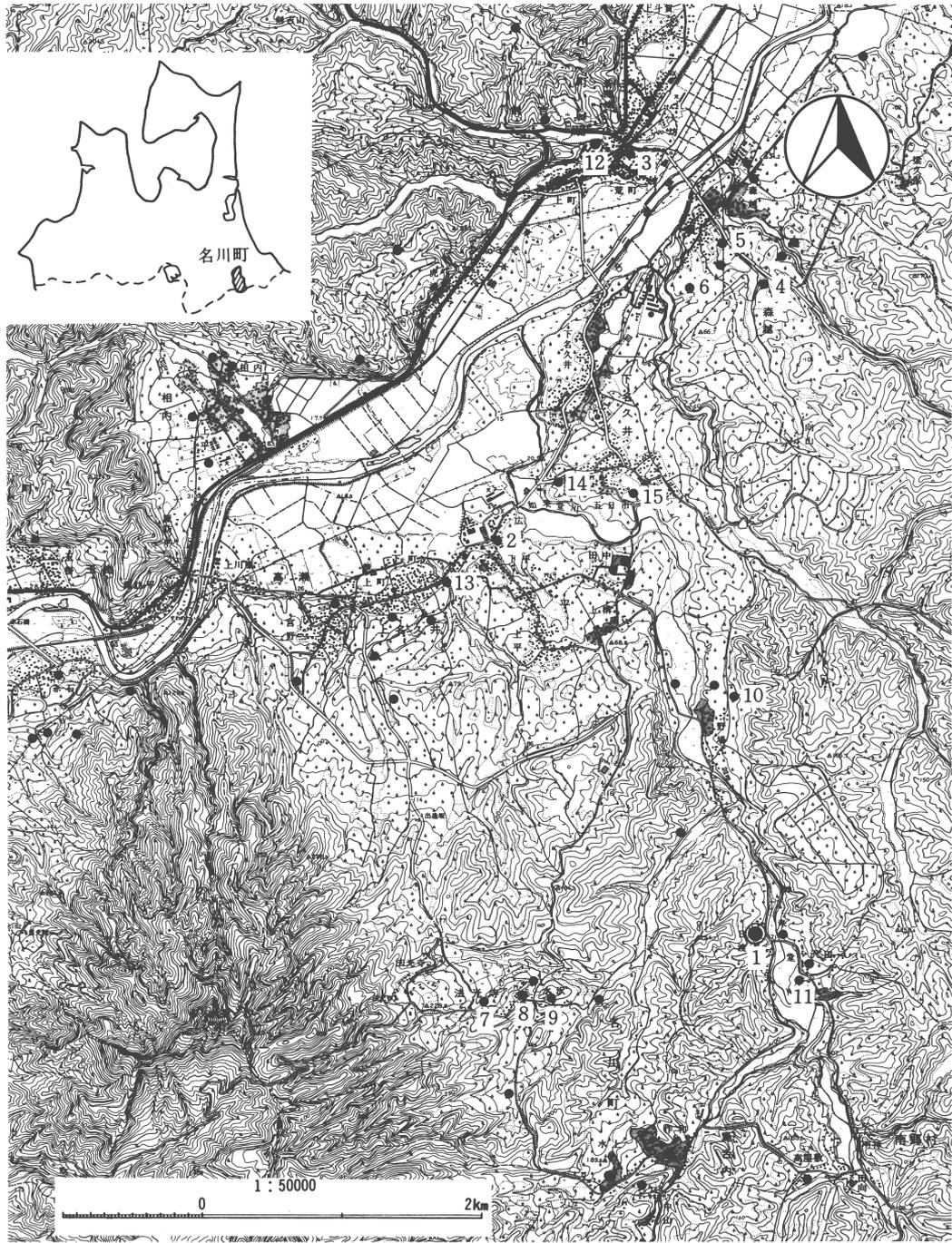
(4) 青森県埋蔵文化財調査センター

調査第二課長 三浦圭介

主 事 小田川哲彦

主 事 増尾知彦

調査補助員 斎藤慶吾、稲見庸子、小野みき



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	日渡遺跡	縄文(早)、平安	6	館野遺跡	奈良、平安	11	中沢田遺跡	縄文(後)
2	虚空蔵遺跡	縄文(後・晩)	7	法光寺平遺跡	平安	12	剣吉館遺跡	中世
3	剣吉荒町遺跡	縄文(晩)	8	水沢遺跡	縄文(中・後)、平安	13	上名久井館遺跡	中世
4	堤ヶ沢遺跡	縄文(早)	9	前館遺跡	縄文(中・後)、平安	14	下名久井館遺跡	中世
5	上名久井野月遺跡	縄文(早・後・晩)	10	野場山遺跡	縄文(後)、平安	15	古館遺跡	中世

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第II章 調査経過と調査の方法

第1節 調査経過

日渡遺跡は、昭和54年の青森県教育庁文化課による踏査で確認された遺跡である。踏査により、縄文時代の土器と平安時代の土師器が数点採取され、遺物包含地として推定約5,000平方メートルが登録された。今回の調査対象区域は、踏査地点からやや北側に位置する。

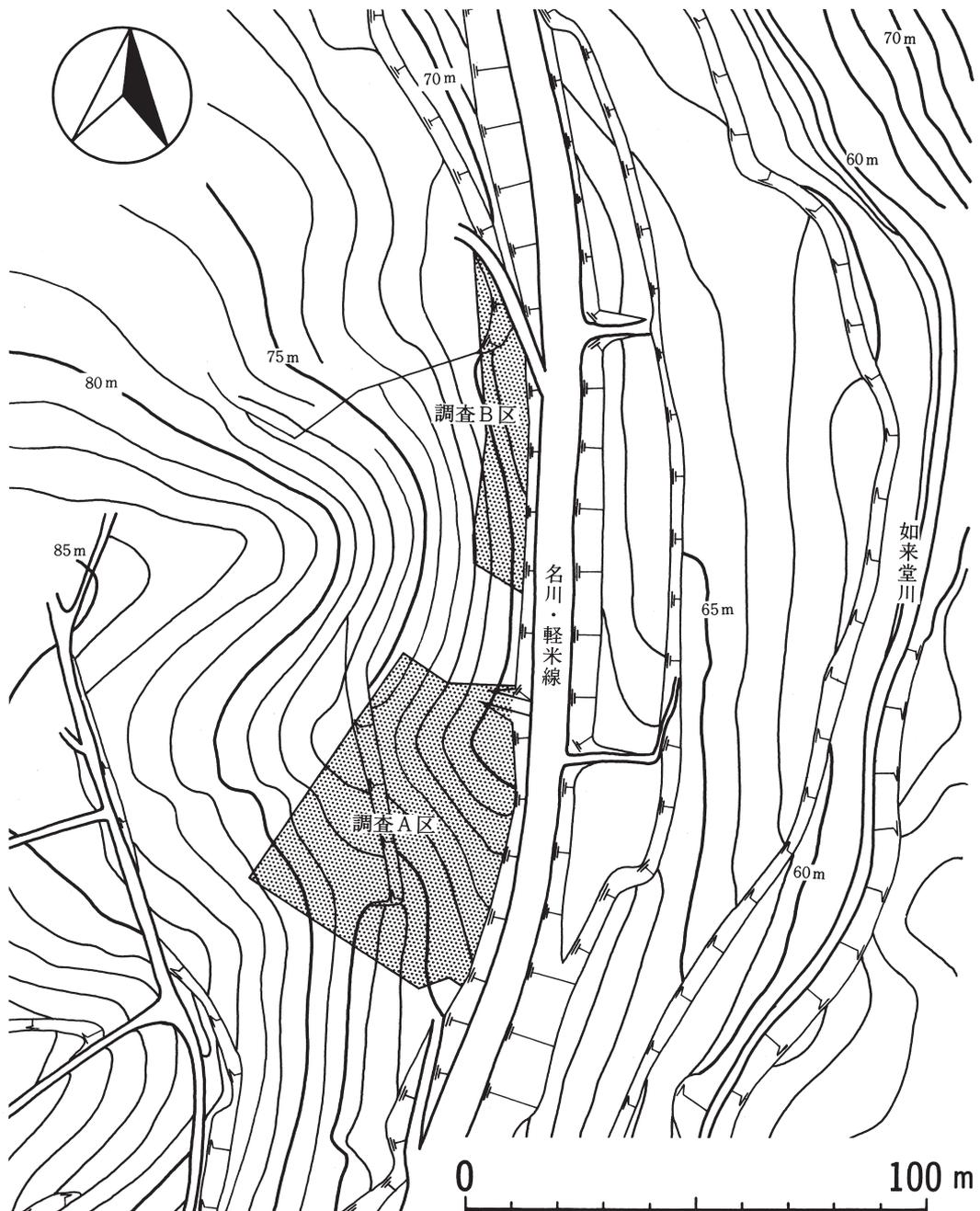
調査区は県道に接して、工事に係わらない部分を挟み二分される。南部分を調査A区、北部分を調査B区とし両調査区の間を排土置場とした。調査区の現況は、A区が林檎・梅の果樹畑であり、B区は蔬菜畑である。

調査は、平成5年4月12日に発掘器材等を搬入し、環境整備後、翌日からグリッド法による試掘的掘り下げを行い、遺構・遺物の出土層位確認からはじめた。調査区内の堆積層は厚く、深い所では2m50cmを越えることが判明した。排土置場とした箇所だけでは処理に苦慮されると判断されたことから、A区北側を先に調査し対処したほか、4月下旬と5月中旬の2度重機により排土撤去を行った。5月中旬においても、A区から出土した遺物は数点であり、遺構は検出されていなかった。A区の調査と並行して行われたB区では、表土層から地山面までが客土であり、地山面は急傾斜で落ち込んでいる。客土中に土師器を包含しているが、現況の地形は大きく改変されたものと判断された。A区西側部分においても同様に改変されていることが判明した。6月に入り、南部浮石層（V層）上面で遺構を確認し、精査後に地形測量を行った。さらに、南部浮石層下位層まで掘り下げたが、下位層では遺溝・遺物は検出されなかった。遺溝・遺物が希薄であることから、当初の調査期間を短縮し、6月25日に調査を終了した。

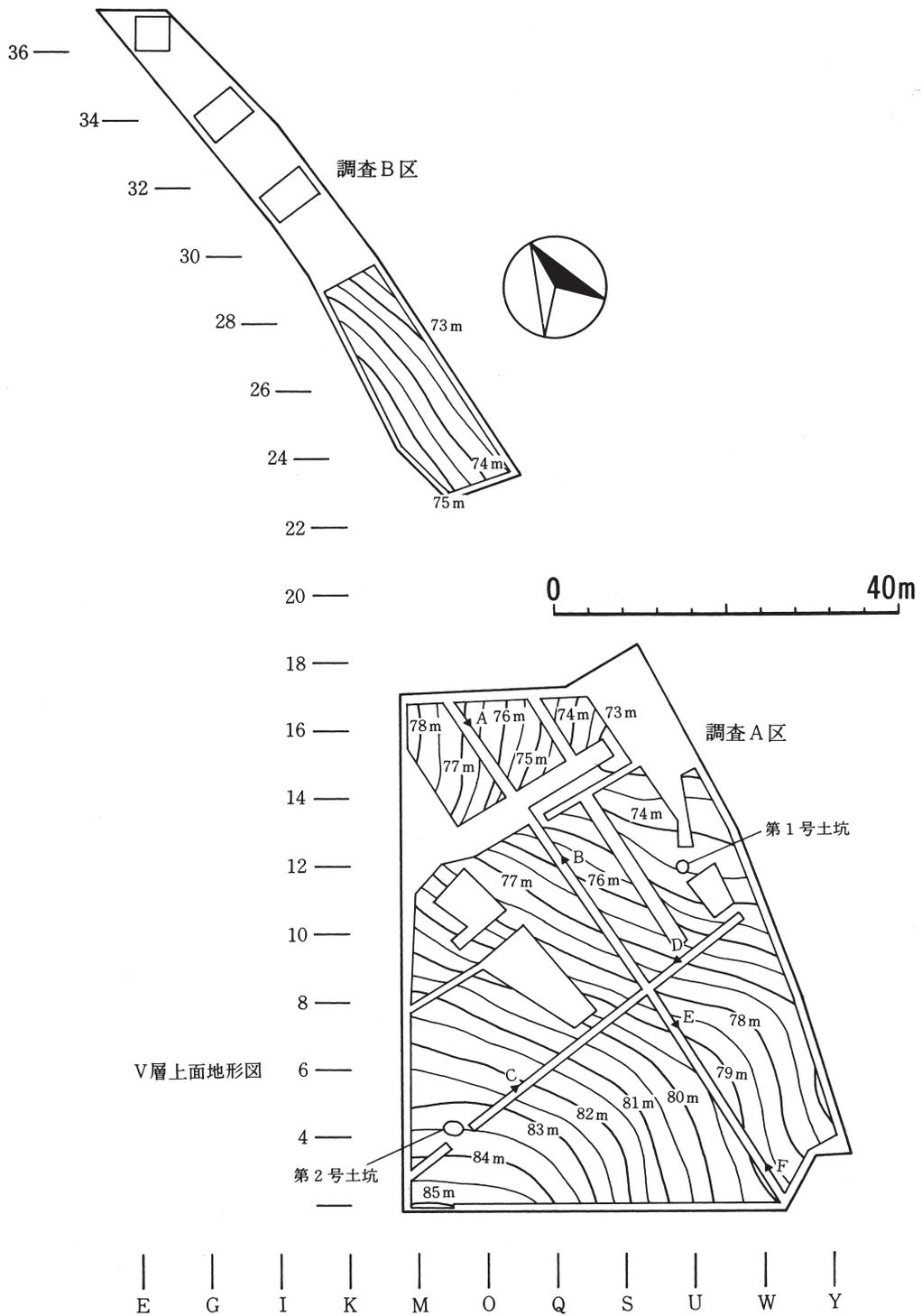
第2節 調査方法

グリッド法を採用し設定にあたっては、日本鉄道建設公団による路線図幅杭のうち578/820（R）と578/800（R）杭を結んだ線を南北の基準線とし、578/820（R）杭から東西・南北に4m四方のグリッドを設定した。グリッドの南北線は、真北から29°東へ振れている。グリッドは、西から東方向へアルファベットを、南から北方向へ算用数字を付し、それを組み合わせてA1～Y38まで刻んだ。調査区の標高は、578/820（R）杭（V7グリッド南東杭）の標高78,119mを原点とし、状況により各グリッド杭を移動点とした。遺構及び土層の図化は、簡易遣り方をうい1/20の縮尺で作成し、調査区内の地形図は1/100の縮尺で平板測量により作成した。土

層の記録に際して、遺構外堆積土にはローマ数字を付し、遺構内堆積土には算用数字を付して表示した。土色については、『新版標準土色帖』1993年版を使用して、土色名とマンセル記号を併記した。写真については、35mmモノクロームフィルムとカラーリバーサルフィルムを用いて、同一アングルで同一コマ数を撮影した。



第2図 遺跡地形図



第3図 グリッド・遺構配置図

第三章 遺跡の位置・層序と周辺の遺跡

第1節 遺跡の位置・層序

遺跡の位置と地形

日渡遺跡は、名川町法光寺日渡に所在する。遺跡は、名川町と岩手県軽米町を結ぶ県道沿いにあり、市街から南へおよそ3kmほど離れている。町の南西に位置する標高615.4mの名久井岳山塊の東側山麓の端部にあたる標高70m～90m程の丘陵にある。

遺跡周辺の地形は、名久井岳山塊の東側斜面に派生する山地丘陵で構成される。丘陵は、小谷に開析され、山塊東側縁辺は、南北方向に起伏のある地形を形成している。また山塊縁辺は、名久井岳山塊の南方から北流する如来堂川に開析されており、特に遺跡近辺では10～20mほどの比高差をもった急崖を形成している。如来堂川沿岸は、開析による狭長な沖積地が続き、その沖積地と段丘上に遺跡が点在する。

名久井岳は、地質構造上は南南東～北北西にのびる背斜軸上に頂部をもち、新第三系中新統に属する砂岩・凝灰岩類と安山岩類を主とする岩石で構成されている。遺跡周辺は、第三系の地層・岩体を基盤とし、その上に第四系の段丘堆積物と火山灰層を主とする火山噴火物・沖積低地堆積物・黒色土層が表層の地質を構成している。日渡遺跡は、山地及び高位丘陵地に属する開析丘陵斜面に立地している。

遺跡の層序

調査区は、派生丘陵先端部の東向き斜面に位置している。東側は、如来堂川に大きく開析されているほか、調査区の南北も小谷に区切られている。調査区の東側は、県道に隣接し建設の際に削土されている。

調査区の現況は農地で、耕作の影響がII層上部まで及んでいる。調査A区の中央部には、斜面上位からの客土で高さ3m程の段差が作られている。このため、Sラインの西側ではII・III層とVI層の一部上位が欠層している。V層以下の堆積土はプライマリーであるが、A区北側にある埋没沢では、V層南部浮石層の堆積もブロック状で、VI層以下も異なっている。B区では削土および客土が顕著で、南側部分ではI層直下にV層面があるほか、B区中央から北側部分まではI b層とした客土が最大3m程みられる。また、この範囲のV層面の傾斜は急激であり旧地形から大きく改変されていることが判明した。

以下に、調査区内の層序を示す。

I a 層 10Y R2/1黒色土 現表土

I b 層 10Y R2/1黒色土 耕作土、部分的に堆肥が散見される。A区東側低地部分では、土色的にII層と分層できない。B区では客土に相当し、最高150cmの層厚をもつ。灰白色の浮石粒子を若干含む。

II層 10Y R2/1黒色土 部分的に耕作を及んでいるほか、A区の盛土から西側の斜面上部と南側、及びB区では欠層している。中振浮石粒子を若干含む。

III層 10Y R2/2黒褐色砂質土 黒色土と中振浮石の混合土。中振浮石(5000~5500B. P.)は流水風土化作用による二次堆積土で、混合の度合は部分的に異なる。凹地ではブロック状に見られる。

IV層 10Y R2/1黒色土 黒色土と南部浮石の混合土。浮石粒子は下部ほど大きく緻密。黄色~赤褐色で粒径は大きく、下部は明黄色~灰白色で細粒である。

V層 7.5Y R~10Y R6/8~6/4黄色~赤褐色土 南部浮石層(8600B. P.)、浮石粒子は上部が黄色~赤褐色で粒径は大きく、下部は明黄色~灰白色で細粒である。

VI層 10Y R3/2黒褐色粘質土 土粒は緻密で堅い。この黒褐色帯は、南部浮石降下以前の地表面と考えられる。(縄文時代早期中葉に相当)

VII層 10Y R4/4褐色粘質土 土壌化した火山灰で、粒径5mm~3cmの黄色の浮石を含む。

VIII層 2.5Y6/4にぶい黄色粘質土 極く細粒の火山灰。八戸火山灰の最下層に相当する。

IX層 7.5Y5/4にぶい橙色粘土 粘土の薄層である。本層以下(IX~XV層)は、段丘砂礫層で、高館火山灰に相当するものと思われる。

X層 7.5Y5/8明褐色土

XI層 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土 粒径1mm程の砂が混じる。

XII層 10Y R5/1褐灰色砂 砂の薄層で黒色土粒が混じる。XIII層との層理面はグライ化している。谷部では層厚があり10~20cm大の礫が緻密である。

XIII層 2.5Y6/4にぶい黄色粘質土

XIV層 7.5Y R5/6明褐色土

第2節 周辺の遺跡

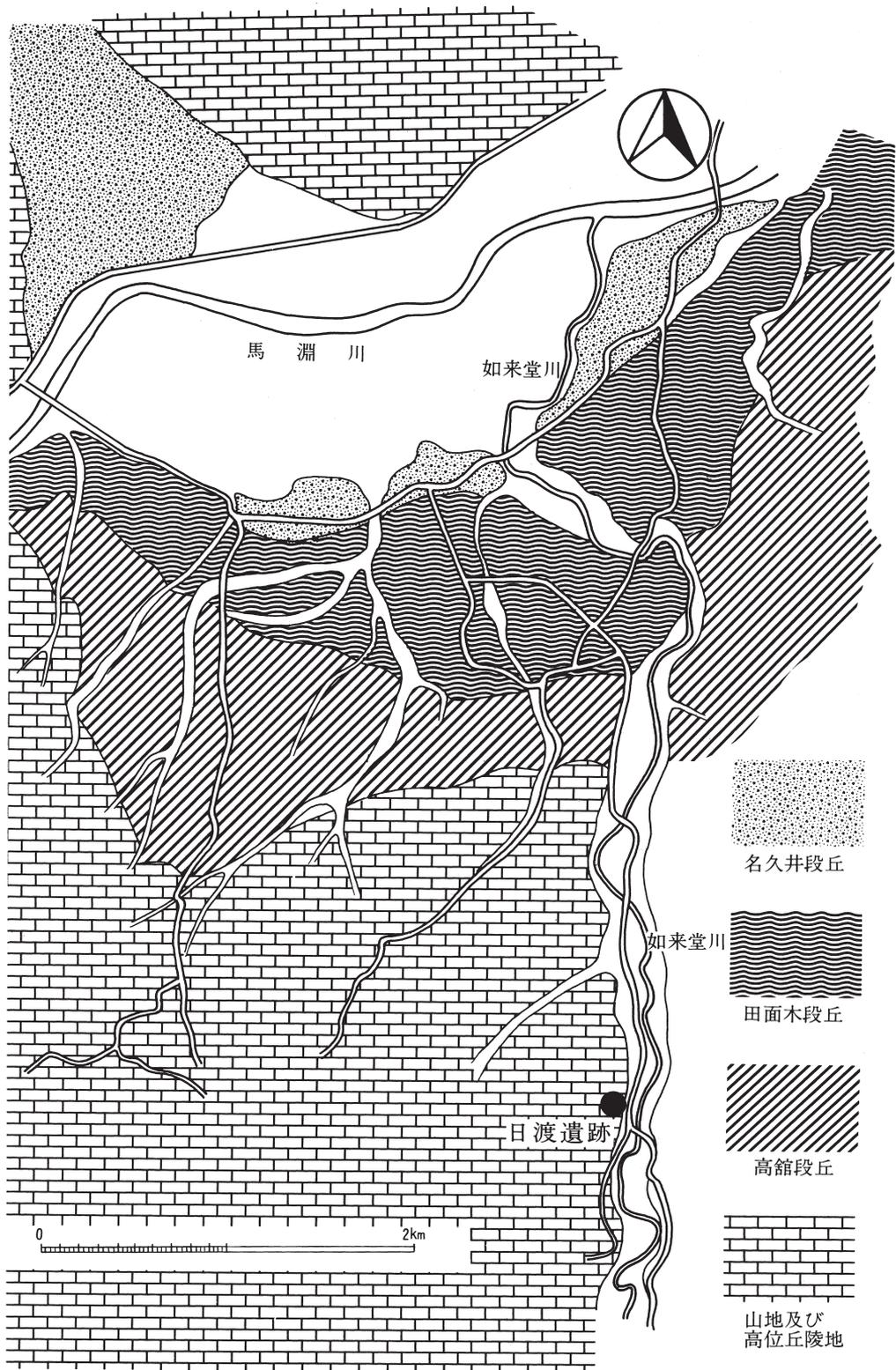
名川町は、青森県南部地域の中でも南端に位置する。隣接市町村は、東に福地村、西に南部町、北は五戸町、南は南郷村、三戸町と岩手県二戸市、軽米町に境を接している。町域は東西8km、南北17.6kmある。町の南西部は、県立自然公園の名久井岳を中心に緑豊かで、中心街は北部を東西に貫流する一級河川馬淵川の両岸に開けている。馬淵川流域には水田が開け、その河岸段丘と名久井岳周辺の丘陵部では、りんご・さくらんぼを中心とした果樹園芸が産業の主体となっている。

名川町の埋蔵文化財は、平成4年度現在で59ヶ所の遺跡が登録されている。遺跡の多くは、馬淵川両岸の段丘上に立地しているほか、標高150～200m程の名久井岳の東裾野と如来堂川流域の高位段丘にも数多く点在している。

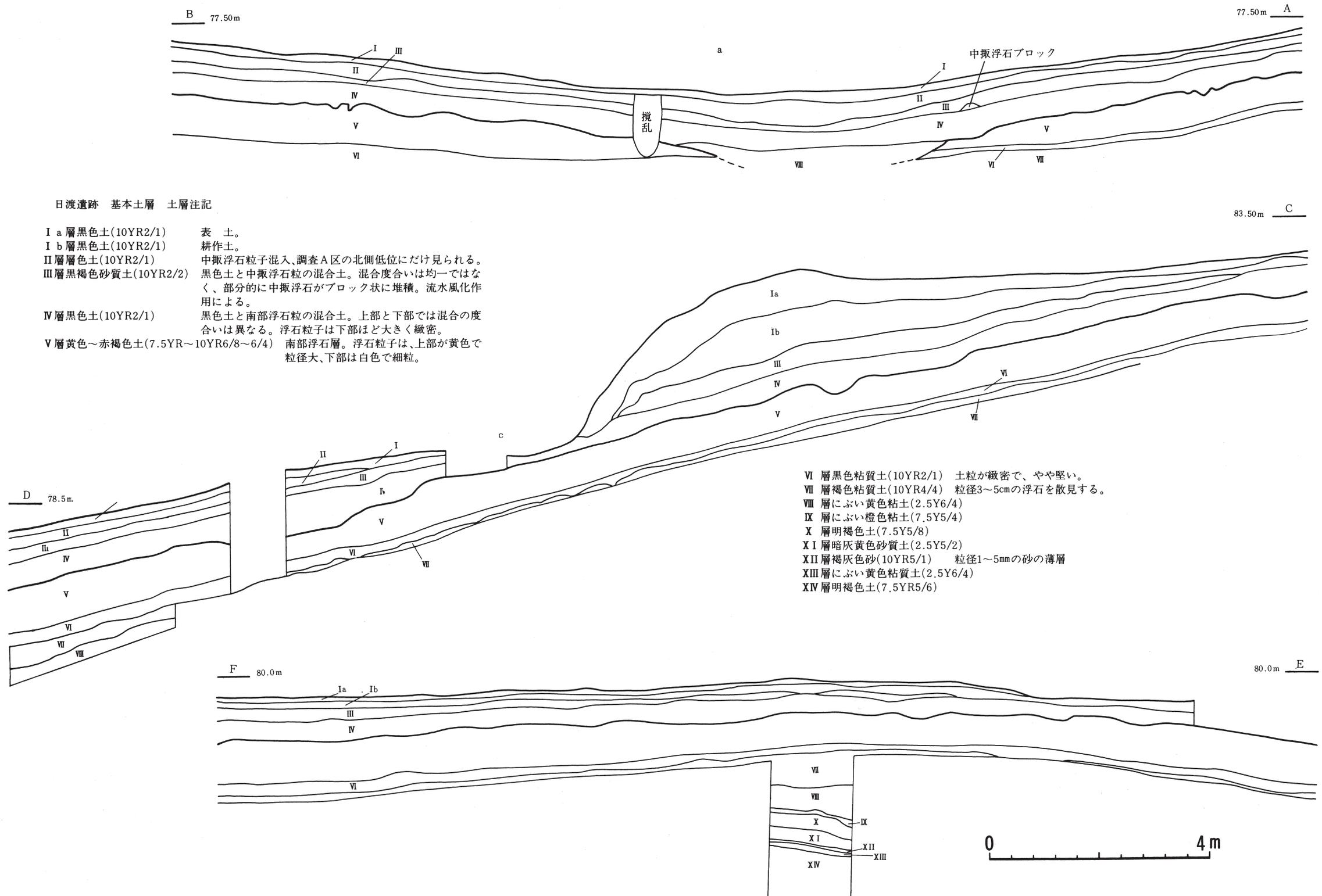
名川町における発掘調査は、過去、虚空蔵遺跡と剣吉荒町遺跡の2遺跡だけが数回に亘り調査されている。両遺跡とも馬淵川段丘に立地する著名な遺跡である。虚空蔵遺跡（平貝塚）は、縄文時代晩期の大洞C₂式土器を主体に出土するほか、縄文時代中期・後期・晩期から平安時代までの複合遺跡であることが判っている。剣吉荒町遺跡は、縄文時代晩期終末期の大洞A'式の良好な資料を多数出土している。名川町と同流域にはこのほか、縄文時代早期の堤ヶ沢遺跡、縄文時代後期と弥生時代の上名久井野月遺跡、奈良・平安時代の館野遺跡などがある。また、同流域の三戸町泉山遺跡は、昭和50年度と平成3年度の発掘調査で環状列石をもつ縄文時代中期から晩期までの大規模遺跡であることが判明している。

名久井岳東裾野に立地する遺跡には、縄文時代後期・平安時代の法光寺平遺跡や水沢遺跡、前館遺跡がある。如来堂川流域では、日渡遺跡のほか野場山遺跡、中沢田遺跡などが知られているが、未調査であり詳細は不明である。

歴史時代においては、南北朝期に北奥の南朝勢力として威勢を振るった根城南部氏が、室町末期から戦国時代にかけて衰退し、代って三戸南部氏が台頭してくる。当地は、根城南部氏と三戸南部氏の間であり、随時その勢力下に置かれていたと容易に推察される。名川町に確認されている剣吉館、上名久井館、下名久井館、古館など、中世の両氏に関連するものと考えて大過ないであろう。



第4図 遺跡周辺の地形分類図



第5図 遺跡土層図

第IV章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

本調査では、調査A区から2基の土坑を検出した。土坑は、埋没沢の南側に約40mの距離をもって作られている。精査当初、土坑内堆積土の浮石層とV層（南部浮石）との境を把握できず、凹地と誤認し、立ち割りによって遺構であることを確認したため遺構の形状を大きく破壊してしまった。

第1号土坑

[位置] T11グリッドに位置し、一部T12グリッドにまたがる。

[検出面] V層上面にIV層の落ち込みを確認。掘込み面はV層上面と考えられる。

[形態・規模] 平面形は、開口部がほぼ円形、底面は楕円形に作られている。開口部の直径は150cmあり、底面の長径はおおよそ100cm、短径は70cmである。深さはV層上面から最大100cm程である。断面形は、底面から上部に向かって開く鉢形である。

[堆積土] 土坑内堆積土は、9層に分けられる。自然堆積であり、土坑の周壁（V層南部浮石）の崩落土とIV層に起因する黒色土が、交互に堆積する。

第2号土坑

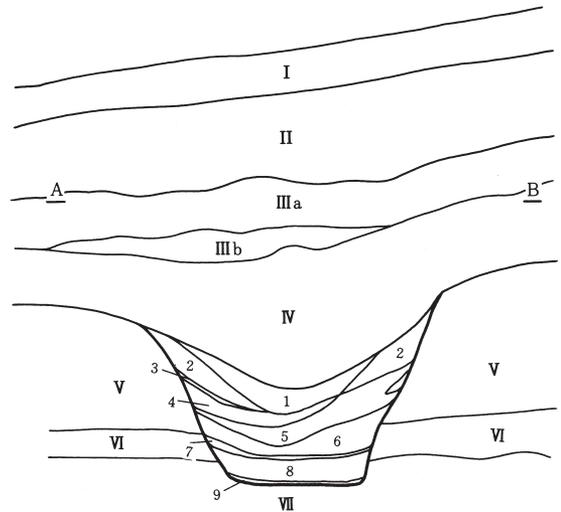
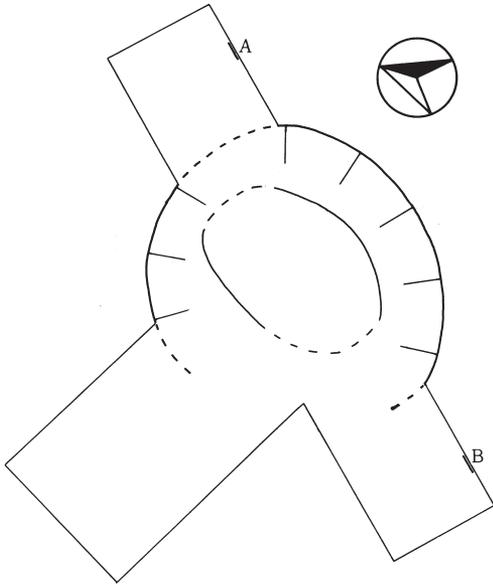
[位置] M4とN4グリッドにまたがって位置する。

[検出面] V層上面にIV層の落ち込みを確認。掘込み面はV層上面と考えられる。

[形態・規模] 調査に大きく破壊したため断定できないが、おおよそ開口部、底面ともに楕円形であったものと推察される。深さはV層上面から最大180cm程である。断面形は、底面から上部に向かってY字状に開く。

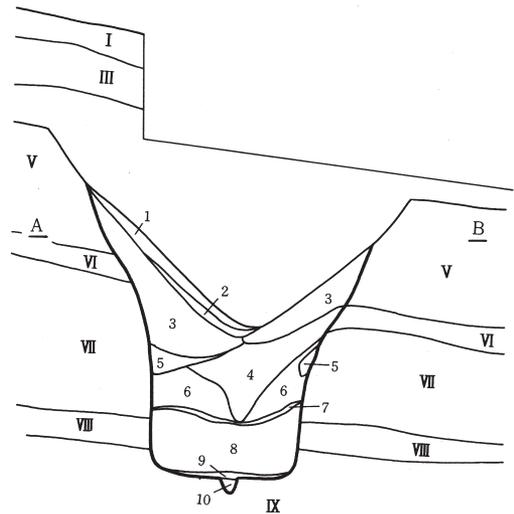
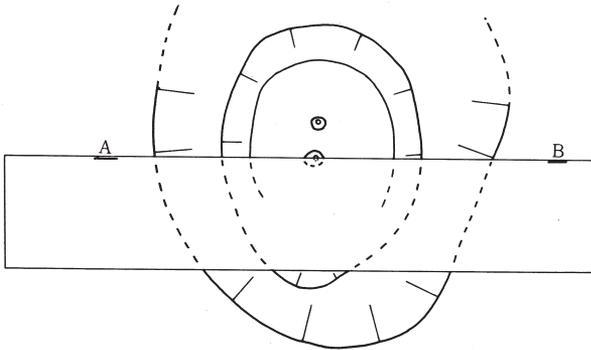
[堆積土] 土坑内堆積土は、10層に分けられる。自然堆積であり、土坑の周壁（V層南部浮石）の崩落土とIV層に起因する黒色土が、交互に堆積する。

[施設] 本土坑の底面には、2つの小穴が見られる。小穴の径は8～10cm、深さ8cmと15cmある。断面がV字状の先細りであることから、打ち込みによる杭痕と推定される。



第1号土坑内堆積土

- | | | | |
|--------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1層 暗褐色土(5YR3/3) | 南部浮石(V層)と黒色土(IV層)の混合土
浮石の割合大 | 6層 橙色~明黄褐色土(7.5YR5/8~10YR6/8) | 南部浮石(V層)と
黒色土(IV層)の混合土、黒色土が塊状に混入 |
| 2層 橙色土(7.5YR5/8) | 壁(V層)の崩落土、黒色土粒混入 | 7層 黒褐色土(10YR3/2) | |
| 3層 黒色土(7.5YR1.7/1) | IV層の土 | 8層 橙色土(7.5YR5/8) | 2層と同じ |
| 4層 橙色土(7.5YR5/8) | 2層と同じ | 9層 におい黄褐色土(10YR4/3) | 薄層で軟らかい |
| 5層 黒色土(7.5YR1.7/1) | 3層と同じ、粒径3cm程の浮石散見 | | |



第2号土坑内堆積土

- | | | | |
|------------------|---------------------------------|---------------------|------------------|
| 1層 暗赤褐色土(5YR3/3) | 南部浮石(V層)と黒色土(IV層)の混合土
浮石の割合大 | 6層 明黄褐色土(10YR6/8) | 壁(V層)の崩落土、黒色土粒混入 |
| 2層 黒褐色土(10YR2/2) | | 7層 黒褐色土(10YR3/2) | |
| 3層 橙色土(7.5YR5/8) | 壁(V層)の崩落土、黒色土粒混入 | 8層 明褐色土(7.5YR5/8) | 黒色土粒混入 |
| 4層 黒色土(10YR2/1) | | 9層 におい黄褐色土(10YR4/3) | |
| 5層 暗褐色土(10YR3/4) | VI層の細ブロック | 10層 灰黄褐粘土 | |



第6図 第1・2号土坑

第2節 出土遺物

本調査で出土した遺物は、極めて少ない。調査A区では、I層より数点の土師器が出土したほか、II・III層から3点の縄文土器片を出土した。調査B区からは、Ib層とした耕作土と客土から数十点の土師器が出土した。また、B区北側の調査区外から、羽口・鉄滓と土師器が集中して表採された。

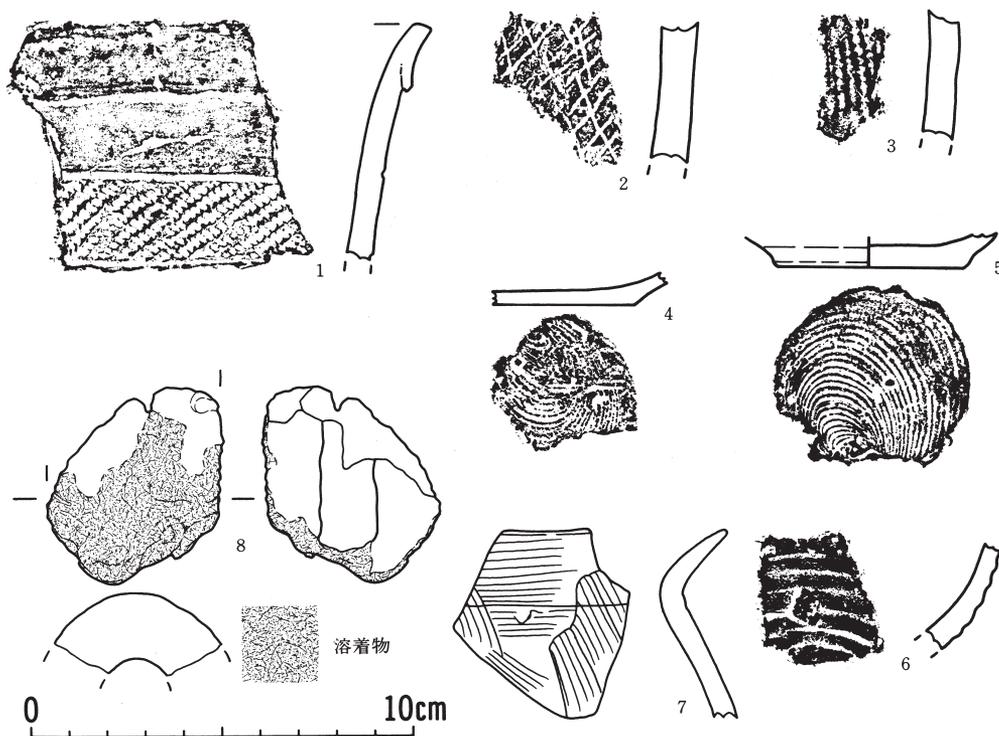
縄文時代の遺物 (第7図1~3)

1は無文帯口縁部破片で、2本の平行枕線の上に斜縄文が施される。2は網目状撚糸文が施される。これらは、およそ縄文時代中期末から後期前半期に比定されるものである。

平安時代の遺物 (第7図4~8)

4~6は坏の破片である。ロクロ成形で、切り離しは回転糸切りである。7は内外面ヘラナデが施される小型甕の破片である。8は羽口の破片で、ガラス質の溶着物が付着している。

出土・採取されたもののほとんどは細片である。坏はすべてロクロ成形で、内面黒色処理されたものが数点ある。甕もロクロ成形で、内外面ともにヘラナデされるものが多い。おおむね9世紀以降に比定されるものである。



第7図 出土遺物

第V章 まとめ

本調査で検出された遺構は、調査A区内の土坑2基だけである。このうち第2号土坑は、底面から逆茂木の痕が検出されたことから、落とし穴と考えられる。帰属時期は、南部浮石降下直後に作られていることから、縄文時代早期中葉頃のものとして判断される。同じく第1号土坑も、南部浮石降下直後に作られており規模・形態もほぼ同様であることと、ほかに遺構が存在しない点で、一連に機能したものと考えられる。

遺物のうち、平安時代の土師器は、調査B区とその北側から集中して出土・採取された。しかし、すべて客土中からのもので、地形が大きく改変されていると判断される。

調査の結果、本調査区内は縄文時代早期の時期には狩猟域の一部であったことが判明した。また、遺物量と内容から、調査区北西側に平安時代の集落の存在が指摘される。全体的には、調査区西側の丘陵頂部周辺に遺跡の主体があるものと思われる。

引用参考文献

- | | | |
|-----------|------|--|
| 滝沢幸長・工藤竹久 | 1978 | 名川町教育委員会「虚空蔵遺跡発掘調査報告書」 |
| 青森県教育委員会 | 1987 | 「前比良遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第108集 |
| 青森県立郷土館 | 1988 | 「名川町剣吉荒町遺跡（第2地区）発掘調査報告書」
青森県立郷土館調査報告第22集 考古－7 |

写真図版



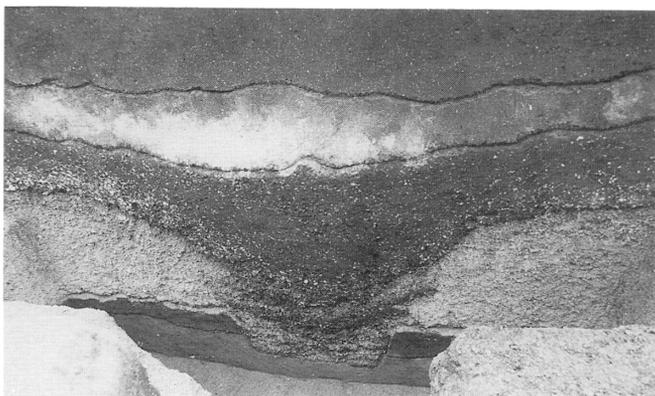
写真1 上・遺跡全景、下・遺跡近景



写真2 上・作業状況、下・土層堆積状態



第1号土坑



第1号土坑土層



第2号土坑



第2号土坑土層

写真3

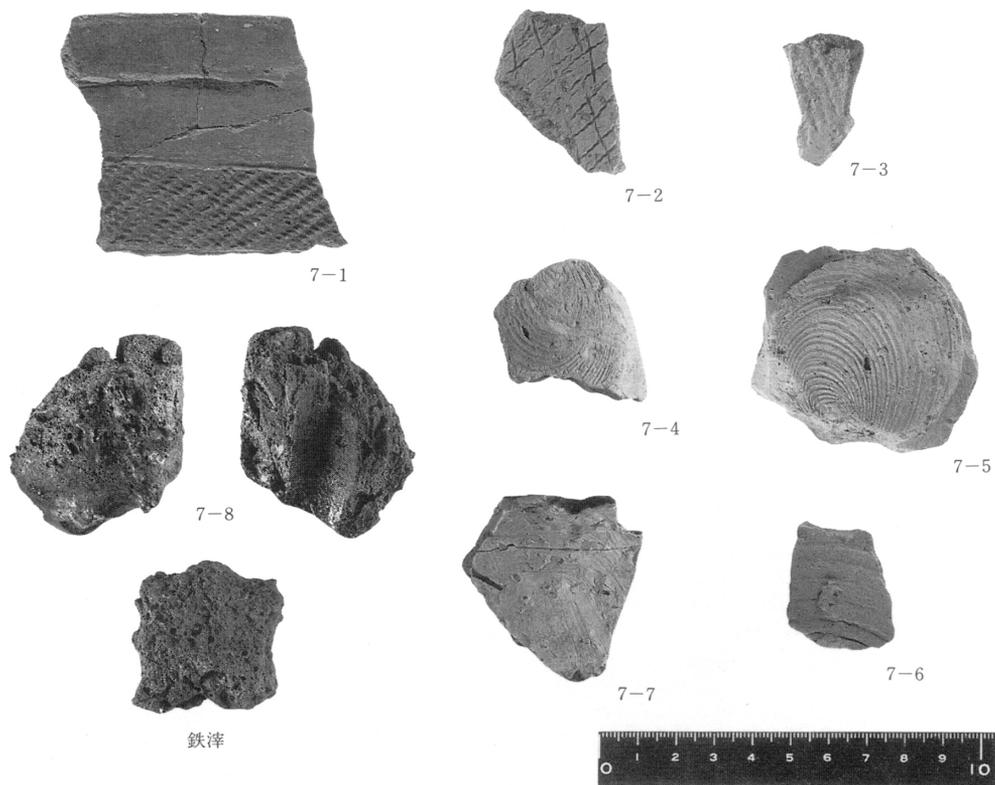


写真4 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひ わ た し い せ き
書 名	日 渡 遺 跡
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第162集
編 著 者 名	小田川哲彦・増尾知彦
編 集 機 関	青森県埋蔵文化財調査センター
所 在 地	〒038 青森市大字新城字天田内152-15 TEL 0177-88-5701
発 行 年 月 日	西暦 1994 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひ わ た し 日 渡	あおもりけんさんのへぐん 青森県三戸郡 な がわ まち ほうこうじ 名川町法光寺 ひわ た し 日 渡	02444	61043	40度 30分 30秒	141度 18分 20秒	19930412～ 19930625	約1,980	東北新幹線 建設に伴う 県道付替工 事に係る埋 蔵文化財発 掘調査

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
日 渡	散布地	平 安	—	土 師 器	
		縄文時代 早期	落とし穴 2 基	—	

青森県埋蔵文化財調査報告書 第162集

日 渡 遺 跡

— 東北新幹線建設に伴う県道付替工事に係る —
埋蔵文化財発掘調査

発行年月日 平成6年3月31日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038
青森市大字新城字天田内152-15
電話 0177 - 88 - 5701
印刷所 株式会社 誠 工 社
〒030-01
青森市大字八ッ役字上林78番42
電話 0177 - 29 - 1611
